

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「土佐日記」 忘れ貝」問題

四日。楫取り、「今日、風雲の気色はなはだ悪し。」と^①言ひて、船^②出ださ^アず^③なり^イぬ。しかれども、

ひねもすに波風^④立た^ウず。この楫取りは、日もえ^⑤測ら^エぬかたる^オなり^カけり。この泊の浜には、

くさぐさのうるはしき貝、石など多かり。^⑥かかれ^バば、ただ昔の人をのみ^⑦恋ひ^フつつ、船^キなる人の^⑧詠め^クる、

^⑨寄する波^⑩打ちも^⑪寄せなむわが^⑫恋ふる人忘れ貝^⑬下りて^⑭拾は^ケむ

と^⑮言へ^コれば、ある人の^⑯堪へ^サずして、船の心やりに^⑰詠め^シる、

忘れ貝^⑱拾ひしも^⑲せ^スじ白玉を^⑳恋ふるをだにも形見と^㉑思は^セむ

となむ^㉒言へ^ンる。女子のためには、親幼く^㉓なり^タぬ^チべし。「玉^ツなら^テずも^㉔あり^トけむを。」と人^㉕言は^ナむや。

されども、「^㉖死^ニし子、顔よかり^ヌき。」と^㉗言ふやうも^㉘あり。なほ、同じ所に、日を^㉙経ることを^㉚嘆きて、

ある女の^㉛詠め^ネる歌、

手を^㉜漬てて寒さも^㉝知らぬ泉にぞ^㉞汲むとはなしに日ごろ^㉟経^ハに^ヒける

古文 品詞分解（動詞・助動詞） 「土佐日記」 忘れ貝」 解答

四日。楫取り、「今日、風雲の気色はなはだ悪し。」と^①言ひて、船^②出ださ^アずなりぬ。しかれども、

タ四^未 未然

ラ四^未 未然 断定 詠嘆

ひねもすに波風^④立た^ウず。この楫取りは、日もえ^⑤測ら^エぬかたる^オなり^カけり。この泊の浜には、

ラ変^已 ハ上二^用

存続 マ四^命 完了

くさぐさのうるはしき貝、石など多かり。^⑥かかれば、ただ昔の人をのみ^⑦恋ひつつ、船^キなる人の^⑧詠め^クる、

サ下二^体 タ四^用 サ下二^未 ハ上二^体 ラ上二^用 ハ四^未 意志

寄^⑨する波^⑩打ちも^⑪寄せなむわが^⑫恋ふる人忘れ貝^⑬下りて^⑭拾は^ケむ

ハ四^命 存続

ハ下二^未 打消

マ四^命 完了

と^⑮言へ^コれば、ある人の^⑯堪へ^サずして、船の心やりに^⑰詠め^シる、

ハ四^用

サ変^未 打消意志 ラ上二^体

ハ四^未 意志

忘れ貝^⑱拾ひしも^⑲せ^スじ白玉を^⑳恋ふるをだにも形見と^㉑思は^セむ

ハ四^命 完了

ラ四^用 強意 推量

断定 打消 ラ変^用 過去推量

ハ四^未 推量

となむ^㉒言へ^ンる。女子のためには、親幼く^㉓なり^タぬ^チべし。「玉^ツならずも^㉔あり^トけむを。」と人^㉕言は^ナむや。

ナ変^用 過去

過去

ハ四^体

ラ変^終

ハ下二^体

カ四^用

されども、「死^㉖し子、顔よかり^ヌき。」と^㉗言ふやうも^㉘あり。なほ、同じ所に、日を^㉙経ることを^㉚嘆きて、

マ四^命 完了

ある女の^㉛詠め^ネる歌、

タ下二^用

ラ四^未 打消

マ四^終

ハ下二^用 完了 詠嘆

手を^㉜漬てて寒さも^㉝知らぬ泉にぞ^㉞汲むとはなしに日ごろ^㉟経^ハに^ヒける